

私はこの作文を書くにあたって税について調べました。すると税は私たちの暮らしをととても豊かなものに行っているということがわかりました。私は、税は消費税しか知りませんでした。税は約五十種類もあり直接税と間接税や国税と地方税など税金の納め方や納める場所にも違いがありました。私は病院に行った時にいつも料金が五百円なのはなぜだろうと思っていましたが調べてみるとそこにも税金が使われていました。私が通っている学校の校舎もプールも体育館も教科書までもが税金でまかなわれているものでした。

私は自分が生まれた時からすでに百円のものには五円の消費税がついていたので二〇一九年に消費税率が十パーセントに引き上げられても百円の物が百十円にかわるだけだと思っていました。額が増えると当然私たちの負担も増えます。それは国民にとって嬉しい事ではないので反対する人ももちろんいました。これからの日本は少子高齢化がますます進みます。そうすると消費税はこの先も確実に上がります。私はこれは悪い事だとは思いません。

私はコロナウイルス流行前にアメリカに旅行に行きました。一度は行ってみたいと思っていた国なのでアメリカのことをたくさん調べてから行きました。アメリカについて調べているときに私は「Pay It Forward」という言葉を初めて知りました。それはとても美しい親切のバトンでした。欧米では誰かから親切にしてもらった時にその人に恩返しするのではなく別の人に恩を送ることで親切のバトンを渡す「Pay It Forward」という取り組みがあります。例えばコーヒーを買う時に自分の後ろに並んでいる人のコーヒー代を払ってあげる。そしてその親切に対して払ってくれた人にお礼をするかわりにその人も自分の後ろのお客さんのコーヒー代を払ってあげるというものです。この取り組みはコロナウイルスが流行したことで再注目されているそうです。去年の十二月にミネソタ州ではドライブスルーでこの取り組みが行われなんと約九百台も時間にして二日と半日続いたそうです。私はこのことを知って驚き税について学んだことで気付いた事があります。

この「Pay It Forward」という素晴らしい取り組みは私たちが税金を納めることに似ていると思います。私たちは税金を納めますが納めた税金が将来自分に必ず帰ってくるわけではありません。他の誰かのために払ったお金がどこかの町や病院で使われどこかの誰かを救うのです。そして逆に自分だけがお金を払っているのではなく国民全員が誰かのために税金を納めそれが自分の周りを豊かにしているのです。どこからか来た税金があなたの周りの人を笑顔にしているのです。アメリカで九百台続いた取り組みのように私たちは税金を納め親切のバトンをつなぎ続けることで優しい社会が続くと思います。